

地域資源としての和歌浦干潟

—生物多様性の宝庫を未来へ—

日時：2025年5月25日（日）13:30～16:00

会場：和歌の浦アート・キューブ（多目的ホールA）

南海電鉄「和歌山市駅」よりバス約25分（「本町二丁目經由新和歌浦」行き、「不老橋」バス停下車）
JR「和歌山駅」よりバス約25分（「公園前經由新和歌浦」行き、「不老橋」バス停下車）

zoomでの配信を希望の方は、下記QRコードより登録ください。
登録締切は、5月23日（金）23:59です。



参加費無料

プログラム

13:30 開会挨拶 前迫 ゆり（紀伊半島研究会会長）

13:35 「和歌浦干潟の底生動物（カニや貝など）」
古賀 庸憲（和歌山大学）

14:10 「和歌浦の魚」
揖 善継（和歌山県立自然博物館）

14:45 「和歌浦干潟のシギチドリ類」
有本 智（自然回復を試みる会ピオトープ孟子）

15:20 休憩

15:30 パネルディスカッション
コーディネーター：和田恵次（奈良女子大学名誉教授、
和歌山県立自然博物館）

パネラー：古賀庸憲、揖 善継、有本 智

15:50 閉会挨拶 酒井 敦（奈良女子大学共生科学研究センター長）

同日10時～12時に干潟観覧会（和歌山大学教育学部生物学教室、
わかのうらひがた倶楽部主催）が行われます。

事前申込不要、参加費無料（希望者のみ資料代300円）

場所：観海閣周辺、詳細は右記QRコードからご覧ください。



主催：紀伊半島研究会

office@kii-peninsula.sakura.ne.jp

共催：奈良女子大学共生科学研究センター

URL: <http://kii-peninsula.sakura.ne.jp/top/>

趣旨

和歌浦干潟はこれまでさまざまな主体（ステークホルダー）による研究、保全、社会教育の場となってきた。それは干潟生物を軸にした干潟環境の質の高さに拠る。

本シンポジウムは、その価値を整理し、貴重な地域資源としての新たな位置づけを模索する機会としたい。

若の浦に潮満ち来れば潟をなみ
葦辺をさして鶴鳴き渡る

山辺赤人

【故地名】玉津島 和歌浦の玉津島神社の背後の奠供山をはじめ、妹背山・境山・雲蓋山・妙見山・船頭山など 今日呼ぶ丘陵が海中の島であった（奈良県立万葉文化館）



箕供山



干潟観察会



わずかに残るヨシ群落



干潟観察会

ヒメヤマトオサガニ
Macrophthalmus banzai



パネルディスカッション:

会場からも活発な意見が出されました



かつてのヨシ帯再生の名残
地形や水の流れとの関係から、
旺盛なヨシ群落の成立には
至っていない

底生動物,
魚類
シギチドリ類からの講演と
問題提起

和歌浦の生物相は
多様ですが、課題もあります。

◆水鳥の休息場の確保

◆ヨシ帯の消失(およそ
100年前に埋め立てられた),

◆ヨシ帯再生の試みの失敗

◆埋め立てたヨシ帯の再生が
今後の課題

ご講演いただいた皆様, 会場とオンライン参加いただいたみなさま, たいへんありがとうございました。